

平成 23 年度 第 1 回高知県特別職報酬等審議会

日 時：平成 24 年 1 月 12 日（木）13:30～15:00

場 所：高知県庁第二応接室

出席者：高知県特別職報酬等審議会

野村会長、木村委員、筒井委員、富澤委員、古谷委員、間嶋委員、宮脇委員

高知県

恩田総務部長、山本総務部副部長、原行政管理課長、元吉職員厚生課長

○ 会議次第

1 委員紹介

2 会長選任

3 会長挨拶

4 副知事挨拶

5 諮 問

6 議 事

・議会の議員の報酬の額並びに知事及び副知事の給料の額及び退職手当の支給基準について

7 その他

・第 2 回審議会について

<主な質疑>

(問) 給与の減額措置のことは考えないのか。配慮するのか。

(答) 資料にもあるとおり報酬額を据え置きとしている団体が多いのは、給与カットをしている団体が多いことが理由と思われる。あくまで本則額（減額前の額）を議論する場になる。なお、減額措置を行っている現状についても忌憚なくご意見をいただきたい。

(問) 退職手当の以前の割合は。

(答) 平成 15 年までは 40/100 から 80/100 の幅の中でその都度議会の議決を経て支給していた。平成 15 年に知事 70/100、副知事 50/100 とし、平成 18 年 4 月から現在の知事 60/100、副知事 43/100 になっている。

(問) 以前、退職金をもらいすぎではとの意見があったが、あれは 1 任期 4 年の金額ではなかったように思うが。

(答) 以前は任期ごとではなく通算で支給していた。

<主な意見>

○職務又は責務で決めるべきなのか、あるいは県の実態で決めるべきなのか非常に難しいところがある。GDP など県の大きな指標との関係で、適切であるか不適切であるかを判断した方がいいのではないか。

○全国との比較がしづらいのが議員さんの報酬。議員一人あたりの報酬額とは別に、人口千人あたりに対しての報酬額とか、そういう見方の方が判断基準としてはわかりやすいのではないか。

○知事が 2 期目を続投されるということで、若い世代も知事を推してついて行くという機運を感じる。知事は休みもなく毎日走り続けている。その中で、平成 22 年は下げると決めたが、やはり下げるのではなく最低現状維持でいいのではないか。

○知事が頑張っているのはよくわかる。ただ、それは数値として表しづらい。大事にしないといけないのは県民感情としてどう写っているかだが、やはり知事は頑張っているという意見は多い。

○1 万円単位の改定は一般的な感覚からしたらどうなのか。今後は、万円単位ではなく千円単位といったことも考えていけば、県民の皆さんにわかりやすいものになるのではないか。